

Information7



本格的に夏らしくなってきたら…

この時期に気を付けたい病院から伝える要注意な症例ベスト3!!

3位：子宮蓄膿症

→最近“多飲多尿・膿が多い”と思ったら**危険サイン!!**
生理後3~4ヶ月は良く観察を。

2位：皮膚病

→夏になると気温上昇により、温度と湿度がUP!
乾燥&清潔を保とう。



1位：熱中症

→暑熱により、体液バランスが**崩れて**しまう病気

熱中症とは、動物が体重の60%占めている体液が奪われ脱水を起こす病気です。熱中症と聞くと気温が高い日になると思われがちですが、気温が高いのみならず風通しの悪い**閉鎖的な高温多湿状態**が最悪なケースです。

症状



微熱 (39~40℃)

粘膜の渴きや色

高熱 (40℃以上)

呼吸の変化・元気消沈

下痢・嘔吐

失禁・痙攣

食欲減退

目の充血・よだれ

呼吸がガチョーのよう

車

ちょっと買い物…はNG!!
JAFによる車内温度の変化の実験で、4月の23.3℃の中車内は48.7℃
ダッシュボード付近は70.8℃までに。
30分だけでも車内環境は大きく変化すると警告しています。窓を開けた

おさんぽ

日中はもちろん猛暑だった日の夕方にも注意が必要です。犬は人よりも地面に近く、アスファルトの温度は日中気温の+20℃とされています。雨上がりも危険です。濡れた道は気温の上昇と共に蒸気がこもり高温多湿

からと言って**油断禁物!** **キケン** この時期は**早朝**をオススメ!!

窓を開け、風通しを良くするのもいいですが…日中はさすがに暑い!!ワンちゃんのためにもエアコンを使い環境を整えてあげましょう。さらに、夏は湿度も上がりジメジメ。除湿も大切です。
室温 25~28℃・湿度 50%前後

おうち

なりやすい**犬種**

- 短頭種
- 持病持ち (肺・心疾患など)
- 肥満犬
- 大型犬
- 咳をする子
- わちゃわちゃな子
- 肥満犬
- 高齢・幼齢犬



対応

とにかく**冷やして**あげましょう!!部屋の冷房を**Max**にし、病院に連れていくことも考え車のエアコンも付け冷やしておきましょう。浴槽に水を張り体を浸けてあげるのも1つの手段。ただし、鼻に水が入らないよう顔を上にし支えてあげて!!濡らしたタオルで体を覆い、**首・ワキ・股**に保冷剤を挟むと体温も下がりやすい!